

# 5 南部氏発祥の地

徒歩30分程度のコース

南部町

加賀美遠光の三男三郎光行は、当地を領し、地名をとって苗字とし南部氏の初代となった。南部三郎光行の名は鎌倉時代の『吾妻鏡』にもみえる。伝承によると、光行は文治5年(1189)、頼朝が奥州藤原氏の討伐の戦功で陸奥の国糠部の地ぬかのぶ(現在の青森県東部から岩手県北部一帯)を与えられたとされている。子孫は、奥州に移り、南部藩の大名として奥州南部地方を支配した。「南部氏発祥の地」南部には、南部氏の面影をみることができる。



## 道の駅なんぶ「南部氏展示室」

(南部町中野 3034 - 1)

南部氏の歴史や南部町内に残る南部氏ゆかりの史跡などを紹介している。



### 1 南部氏館跡

享保時代の記録によると、「屋敷は東西一丁余(約109m)、南北四十間(約72m)、土塁、泉水、堀があったが今は埋められ窪地になっている。北方には差し渡し七尺(約2.1m)の掘り抜き井戸が残り云々」とある。今は「空井戸」がみられる。町指定文化財。



### 2 妙浄寺

新羅三郎義光が創建した寺。源氏の祈願寺であり、南部氏の菩提寺。南部家の家紋である『向鶴』を寺紋としている。



### 3 新羅神社

建久年間(1190~1199)に創建されたといわれる。光行が甲斐源氏の祖、新羅三郎義光の霊廟を建立し、一門の守護神とした。



### 4 南部城山・5 古城山

遺構は山頂とこれに連なる尾根上にある。山頂の北東150mの小ピーク一帯で三つの郭が連続し、二箇所に堅堀も設けられている。また南側鞍部に面し、比較的大きな土塁が築かれる。築城者・築城時期は明らかでないが、一帯の眺望に優れ、南部宿が隣接することから、武田氏が宿と往還の警護を目的に整備されたと考えられる。



### 6 浄光寺

かつて本堂の裏山中腹に南部一族のものと思われる墓石が30基程祀られていた。裏山が崩落した際に墓石(宝篋印塔や五輪塔)が埋没したが、掘り出され境内に安置されている。町指定史跡。



### 7 諏訪神社

嘉保2年(1095)に新羅三郎義光が社殿を建立し、その後建久年間(1190~1199)に光行が造営した。所蔵の「般若心経」の奥書には弘治2年(1556)に穴山信友が書写したことが記されている。県指定文化財。